

木津川・桂川・宇治川圏域河川整備計画検討委員会 第17回資料

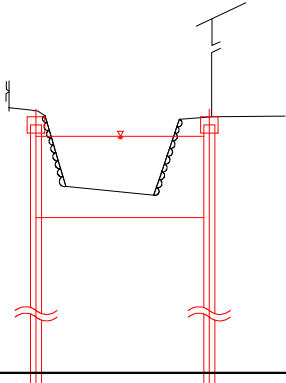
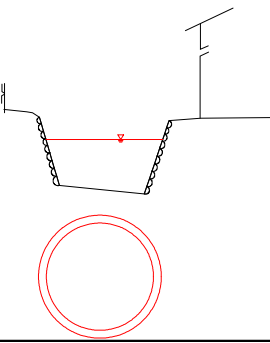
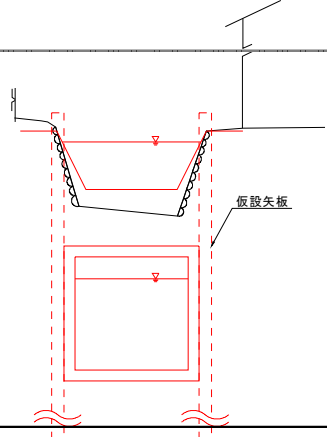
<安祥寺川・四宮川>

(代替案と事業投資効果)

平成28年11月17日

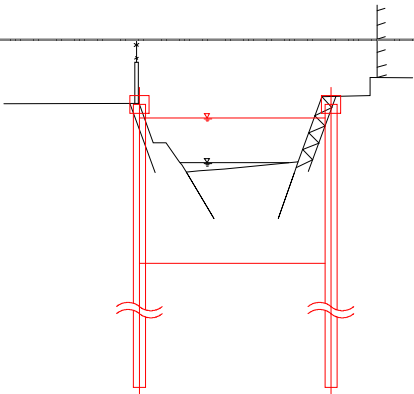
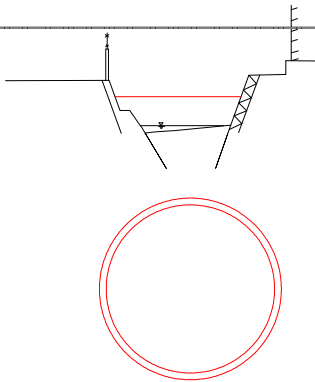
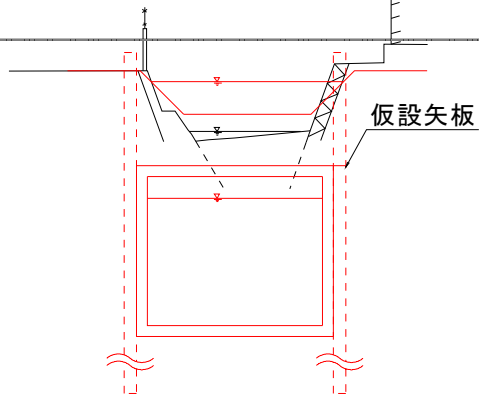
京都府

1.代替案の可能性（安祥寺川）

案	河道断面拡大案	分水路案	二層式河川案
	※ JR交差部はいずれの案も分水路を設置するものとし、 <u>JR交差部より下流</u> について比較検討する。		
治水対策の概要	<ul style="list-style-type: none"> 河道拡幅・河床掘削することで、河道断面を拡大する案 	<ul style="list-style-type: none"> JR交差部から府道四ノ宮四ツ塚線の下流まで分水路を設置する案 	<ul style="list-style-type: none"> 二層式河川とすることで、所定の流下能力を確保する案
			
利点と問題点	<ul style="list-style-type: none"> 下流改修済区間の高さに合わせるため、大幅な河床掘削ができず河道拡幅が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 分水路により断面を確保するため、河道拡幅が不要。 	<ul style="list-style-type: none"> 地下水路により断面を確保するため、河道拡幅が不要。
	<ul style="list-style-type: none"> 河道を拡幅するため、家屋移転が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 河道を拡幅しないため、家屋移転が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 河道を拡幅しないため、家屋移転が少ない。
	<ul style="list-style-type: none"> 河道を拡幅するため、工事による近隣家屋への影響が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地下での工事となるため、工事による近隣家屋への影響が小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 二層式河川施工時に仮設矢板が必要であり、工事による近隣家屋への影響が大きい。
	<ul style="list-style-type: none"> 河道を拡幅するため、橋梁等の改修が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 河道を拡幅しないので、橋梁等の改修が無い。 	<ul style="list-style-type: none"> 矢板打設の支障となる橋梁等の改修が必要。
	<ul style="list-style-type: none"> 工期が長い。 	<ul style="list-style-type: none"> 工期が短い。 	<ul style="list-style-type: none"> 工期が長い。
	<ul style="list-style-type: none"> 下流から着実に治水安全度が向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> 分水路が完成するまで効果が現れない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地下水路が完成するまで効果が現れない。
	<ul style="list-style-type: none"> 矢板護岸となり、景観・環境が変わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 景観・環境は現状の通り。 	<ul style="list-style-type: none"> 上層の河川を現状とほぼ同じ形状で整備するため、景観・環境は現状とほぼ同じ。
事業費	約 77 億円	約 75 億円	約 81 億円
判定	×	○	△

※いずれの案も、JR交差部(段階整備区間)の事業費(約50億円)を含めた全事業費である。

2.代替案の可能性（四宮川（山科川の一部を含む）

案	河道断面拡大案	分水路案	二層式河川案
治水対策の概要	<ul style="list-style-type: none"> 河床掘削することで、河道断面を拡大する案 	<ul style="list-style-type: none"> 分水路を設置する案 	<ul style="list-style-type: none"> 二層式河川とすることで、所定の流下能力を確保する案 
利点と問題点	<ul style="list-style-type: none"> 現河川幅での改修を基本とするため、家屋移転が少ない。 矢板を打設するため、工事による近隣家屋への影響が大きい。 工期が長い。 下流から着実に治水安全度が向上する。 段階的に整備できる。 矢板護岸となり、景観・環境が変わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分水路の流入口、放水口のための用地が必要となり、家屋移転が多い。 地下での工事となるため、工事による近隣家屋への影響が少ない。 工期が短い。 分水路が完成するまで効果が現れない。 地下水路の段階的な整備ができない。 景観・環境は現状の通り。 	<ul style="list-style-type: none"> 現河川幅での改修を基本とするため、家屋移転が少ない。 二層式河川施工時に仮設矢板が必要であり、工事による近隣家屋への影響が大きい。 工期が長い。 地下水路が完成するまで効果が現れない。 地下水路の段階的な整備ができない。 上層の河川を現状とほぼ同じ形状で整備するため、景観・環境は現状とほぼ同じ。
事業費	約 50 億円	約 219 億円	約 61 億円
判定	○	×	△

3.事業の投資効果について

資料②-2

河川名	整備内容			費用対効果		
	整備目標	整備延長	メニュー	B 総便益 (億円)	C 総費用 (億円)	B/C 費用対効果
安祥寺川	概ね10年に1回の洪水に対し、 浸水被害を解消	約500m	分水路	1082	48	22.5
四宮川 (山科川の一部を含む)	概ね10年に1回の洪水に対し、 浸水被害を解消	約2,300m	矢板護岸 河床掘削	980	33	29.8

※治水経済調査マニュアルに基づく現在価値化した総便益Bと総費用Cから算出している。